

視点(2362)

DXと未来の流通(その2)!!

(ICT&ネット市場編)

(流通とSC・私の視点2361より続く)

(3) 近未来・未来の経済・流通の可視化のキーポイント

2020年から2045年までの経済・流通の大変化の基軸はグローバル化や金融経済化や技術革新でした。その中の技術革新は今後の基軸で、その概念はDX(デジタル革命)です。このDXによって2つの基軸となるキーポイントは次の通りです。

1つは「フリー化」(ここでは特定の概念の内容の希薄化・無意味化を意味し、直訳としては無限化、自由化、ローコスト化)です。もう1つは「シームレス化」(ここでは特定の概念の境目の希薄化・無意味化を意味し、直訳としては境目のない区別する意味のない)です。

1) 4つのフリー化

①スケールフリー(規模の投資コストのフリー化)

DXにより規模という概念が希薄化して意味をなさなくなります。大きい小さいはリアル空間での概念であり、デジタル空間では規模は無投資あるいはローコストで無限に拡大可能であり、デジタル社会では規模は優位性の基準とならなくなります。すなわち、商業施設の物理的サイズの優位性や商品の選択肢である品揃えの多さの優位性やパーキングや大量交通機関の乗降客の多さや通行量の多さ等の交通条件の良さの優位性は希薄化あるいは無意味になります。

②ディスタンスフリー(モビリティの移動・交流コストのフリー化)

DXにより距離という概念が希薄化して意味をなさなくなります。近い遠いはリアル空間での概念であり、デジタル空間では無投資あるいはローコストで移動や交流が無限に可能であり、デジタル社会では距離(時間)的に近いことは優位性の基準とはなくなります。従来の広域型移動・交流人口は、未来には現在の50~70%となる可能性があります。すなわち、EC(電子取引)やリモートビジネスやデリバリー(配信・配達ビジネス)により距離という概念はなくなります。

③タイムフリー(時間利用のフリー化)

DXにより時間という概念が希薄化して意味をなさなくなります。仕事や教育の拘束時間がリモート化し、家事の自動化・簡素化、さらに働き方の多様化・自由化やリモート化(遠隔化)により、裁量時間(自分で自由に使える時間)が増大します。その結果、時間の使用の多様化・自由使用の拡大化が起こり、時間のコスパの概念(効率的時間の使用方法)が重要視されるようになります。

今後は従来型の使用時間は70%となり、新たな新使用時間(余暇)ができ、新しい時間使用ビジネスが登場します。

④スペースフリー(空間利用のフリー化)

DXによりスペースという概念が希薄化して意味をなさなくなります。空間(スペース)は体積空間(入れ物の容量)と移動空間(距離を伴う移動空間)です。スペースフリーは、スケールフリーと同意義となりますが、視点が異なるために別分類としました。リアル空間では体積によりものの収容の能力が限られますが、デジタル空間では無限の容量が無投資あるいはローコストで可能です。また、空間での人の移動や交流もデジタル空間ではネット上で無限の容量がローコストで可能です。あらゆるものをデータ化し、蓄積し、保管し、移動し、活用することは、デジタル空間では容易です。色々なビジネスモデルをフィードバック(検証)したり、アップデート(更新)化するためのノウハウづくり、またAI化もスペースフリーでローコストで無限かつ容易になります。

以上のように「フリー化」は、リアル空間の物理的制約を無限化及び低コスト化することにより、物理的制約を希薄化あるいはゼロにします。この現象を「DXによる物理的制約のフリー革命」と定義づけられます。

(流通とSC・私の視点2363へ続く)

(株)ダイナミックマーケティング社⁸

代表 六 車 秀 之